

学生たちの感想文から

学生たちは毎晩、一日のスケジュールを終えてから日記形式の感想文を書き、第18回訪日の記録とした。以下、その一部を紹介する。

日付：5月24日（火）1日目

大学名：清華大学

氏名：陳文鋸

5月24日の正午、私たち一行は首都空港に集合し、搭乗手続きやセキュリティチェックの後搭乗した。私たちが今回乗る飛行機は、今回の訪日活動を支援する中国日本商会のメンバーである全日空のものであったため、私たちは空港にて全日空のスタッフのもてなしを受け、さらに同社からアニメ風のフライトアテンダントのマグネットステッカーを頂いた。

搭乗を済ませ、3時間余りのフライトとなった。その中の大部分は海の上での飛行だったが、関西空港への着陸が近づき飛行機が降下を始めた際、私たちは窓から海面上の波を見ることができた。また関西空港は海を埋め立てて造られた空港とのことである。私たちは着陸後、初めて陸地から日本を見た。空はとても青く、雲は低く、潮の香りが混じったそよ風が吹いていた。これが私の日本に対する最初の印象である。

空港で簡単に食事を済ませた後、私たちはバスで京都に向かった。道程は1時間少々で、この間日本の発達した交通網を体験することができた。その後京都のホテルに着き荷物を降ろした後、私たちはすぐにまた外出し京都の夜景を楽しんだ。京都は長い歴史のある古都であることから、都市の建築物も皆低く、街路も比較的狭い。夜の京都はとても静かで、道端にはところどころにある居酒屋、24時間営業のコンビニそして様々な自動販売機がある程度で、清潔、整然、古風、静謐というのが私の京都に対する印象である。

そしてホテルでは私たちへ浴衣が準備されていた。それを身に付け可愛い写真を撮った後、明日の討論会について少し準備をしてから眠りについた。

おやすみなさい、京都。

日付：5月24日（火）1日目

大学名：中国人民大学

氏名：史蕊

朝早くに起きて訪日団の制服に着替え、荷物を整えて待ちに待った今回の旅へ出発となった。当初私は自分がとても早くに出発したと思っていたが、先生方や一部の団員が早くから空港に到着していた。これには私は、先生方や日本側のスタッフの皆さんの情熱や真面目さを感じ、さらに私自身も訪日団の一員としての責任感をより意識し、絶対に個人的な理由で皆に迷惑をかけてはならないと感じた。

今回初めて日本を訪れ、多くの点で衝撃を受けた。1) 空港やレストランのスタッフはいずれも笑顔で私たちへ挨拶をしてくれ、これには私も笑顔で返さないと失礼になると感じた。私は彼らのこうした互いを尊重し、互いにポジティブさを与え合う生活習慣に感動した。2) トイレの設計が合理的で非常に清潔である。まず、日本のトイレには洗浄、加熱など沢山の機能があり、人に優しく、とても高級である。しかも日本には中国のようなごみ箱はなく、ごみを吸い取る機械がついていてとても清潔である。彼らのこうしたきめ細かさや思いやりには感服させられた。他人を思いやるこうした設計は、使用する人を心地良くする。

1人の外国人として日本を訪れ、正直なところ常に緊張している。なぜなら自分の国を離れた私たちは中国を代表しているのであり、また中国の大学生の振る舞いを示しているからである。だから自分の振る舞いが日本人的におかしいかどうかを常に気に掛けている。先生が言うように、こうした緊張感には実は良いものであり、緊張感で自分を戒め、

また自分を厳しく律することができる。こうした緊張感を通じて、私たちもより礼儀正しく、またより優れた自分に変わっていくのである。

日 付： 5月24日（火） 1日目

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 黄静

初日のスケジュールはほとんど飛行機とバスの中で終了したため、日本という国に対してはまだ踏み込んだ理解をしていないが、それでもこの数時間において、私は日本のサービスにおける誠実、思いやり、細やかといった接客のあり方を感じることができた。

飛行機内では、客室乗務員は常に穏やかな声と笑顔で乗客の様々な要望に応え、空港内のレストランでは、サービススタッフは中国語で料理の紹介をするなど、その行き届いた接客態度はとて心地良いものであった。またビュッフェエリアには子供用のスペースもあるなど、とても微笑ましく思うと同時に、こうした全てのゲストを思いやるサービス精神には感慨を覚えた。なぜなら中国では、比較的高級なビュッフェでもこうした光景は見られないからである。そして私たちの乗るバスがホテルを離れる際、ホテルのマネージャーは私たちを見送ってくれ、私が彼に手を振ると、彼もすぐ笑顔で応えてくれたのである。これにはとても感動した。

明日は島津製作所への訪問と京都大学での学生との交流である。どのような印象深いことが待っているのだろうか。心から楽しみにしている！

日 付： 5月24日（火） 1日目

大学名： 北京第二外国語学院

氏 名： 袁偉傑

昨夜は興奮のあまり中々寝付けなかった私だが、今夜はすでに京都の新・都ホテルに泊まっている。

今日は朝早くに起き、準備を整え11時に先輩とともにT3ターミナルビルに到着した。そして全ての搭乗手続きを済ませ、複雑な気持ちで飛行機に乗った。初めての飛行機で未知の国に向かう、憧れと緊張が入り混じり、自分が日本に溶け込みこの国の風土と人情を体験し、互いの国の文化的違いを感じたいと思いながらも、言葉の壁がそれを許してくれないのではないかという不安も抱いていた。

その後、飛行機は日本の上空に到達したが、上空から見ただけで日本の違いが感じられた。ここでの同行の許さんの、上空から見ると北京はビルの模型のようだが、日本を上空から見ると緑化整備された建築模型のようだという言葉は印象的だった。

飛行機を降りた私は、すぐに細かな分類がされているゴミ箱を見かけた。当初私はこうした分類はインターネット上で大げさに言われているだけだと思っていて、日本では本当にこうした分類がされていたとは知らなかった。

その後私たちは空港内でのビュッフェディナーとなった。また私たちの世話をしてくれたのは中国籍の方だったので、とても親しみが感じられたが、中国籍のサービススタッフであれ日本人のサービススタッフであれ、彼らの接客態度は完璧で、彼らの変わらぬ笑顔は私の異国の地における心の不安をかき消してくれた。

そしてバスで私が今滞在している新・都ホテルにやってきた。明日の島津製作所と京都大学への訪問に胸を躍らせている私は早く寝ることにした。しっかり英気を養い明日を迎えたいと思う。

日 付： 5月24日（火） 1日目

大学名： 中央民族大学

氏名：底家銘

今日の北京は見渡す限り雲が無く、これには私の切迫した気持ちにさらに灯がともった。私たちは2番目に空港へ到着した。以前私は訪日団の制服の色が派手すぎると愚痴をこぼしたことがあるが、空港に着き黒山の人だかりの光景を見て、はじめて先生方の気配りを理解することができた。この色は非常に見分けがつきやすく、グループからはぐれにくいのである。

私は生まれて初めての飛行機だったため、搭乗手順が分からなかったが、随行の先生のご指導や優しい空港スタッフの案内で無事セキュリティチェックを通過した。

そして搭乗時刻となり私たちは続々と機内へ搭乗した。私にとってはすべてが初めてであったため、私は子供の様にあちこち見渡した。私は小さい頃、時折車酔いをしていたため、ここでも楽しさを感じると同時に、飛行機内で酔うのではないかと心配していた。そして飛行機がゆっくりと滑走路に向かい、そして加速の後離陸した。飛行機が上昇する時機体が激しく揺れ、上空に着くまでの間に多少の上下運動があり、私は興奮した気持ちでこれらを体感した。幸いにも酔うことはなく、仲間たちとの楽しい会話の中で3時間が経過していった。

そして私たちは大阪の関西国際空港に到着した。皆は機内で食事をしていたものの、多少の疲れと空腹を感じていた。そして私たちは関西空港内のホテルで豪華なディナーを楽しんだ。私はこれが初めての日本料理で、焼き魚とステーキは印象的であった。それから抹茶のデザートである。日本の抹茶はやはり評判通りの美味しさであった。そして食事の後、私たちはすぐに京都へ向けて出発し、新・都ホテルに到着した。新・都ホテルはとてもきれいで印象深かった。そしてお風呂に入った後、疲れた私はすぐにベッドに横たわり眠りについた。

日付：5月24日(火) 1日目

大学名：北京工業大学

氏名：曾椽

幼いころから憧れと思いを寄せていた国への旅、8、9歳の頃から現在の19歳までずいぶんと時間が掛かったが、ついに訪れることができる。だが飛行機がゆっくり降下し日本への着陸が近づくほど、自分の中での現実味が無くなっていった。そして大海原と、行き交う異国の人々、看板のネオンサイン上の日本語などを目にして、やっと自分は日本に来たのだと実感することができた。今、目の前に日本という国がある。好きな人、好きな音楽、好きな文化、好きなものすべて、それらのほとんどがこの国から来ている。そして今この時、それらは長年会っていなかった親友のごとく私に手招きをし、両腕を広げて私に抱擁をしてくれた気がした。

初めて訪れた日本での私の印象は、①伝統、②繊細さ、③節約といった単語で総括できる。伝統については、滞在した京都のホテルでは、客室内に仏教やキリスト教および現地の伝統文化を紹介する書籍が備え付けられ、善と文化を発信している。仮に人々が皆こうした蘊蓄と善の心を持ち、伝統を重んじれば、国は必ず栄え、家庭は必ず睦まじくなる。繊細さについては、備え付けの物品には足りないものは全くなく、すべてが揃っていて、しかもきれいで整然としていて非常に心地が良い。そのためこうした環境においては、何をすることも心を乱すことはなく、一心不乱に手を抜かず、思いを静めて物事を行うことができ、それが次の繊細さをもたらす、それらが繰り返され良い循環を形成している。節約については、仏道では人への良い報いには限りがあるとしているため、ここでは至る所の物品において資源の節約を求めている。節約も本来美德であり、現在のこうした時代にあっては尚のこと提唱すべきである。

今日の感想はおよそこのような感じである。

以上。

日 付：5月25日（水）2日目

大学名： 中国人民大學

氏 名： 于孟鑫

2日目から私たちの企業訪問の活動が始まった。島津製作所は日本における代表的な百年企業として、今回の私の日本企業学習の先陣を切った。スタッフの紹介を聴いた私は、まず二つの感想を持った。まず、企業理念は企業の進むべき方向であり、同社を環境の保護や地球の保護に導くものである。だからこそ同社は環境保護をテーマとし、これまで社会の潮流に順応、ひいてはその潮流をリードしてきたのである。次に、挑戦と革新は企業あるいは人類が進歩をするための方法であり、私たちは絶えず挑戦を受け入れ、革新をしていってこそ進歩することができるのである。企業の角度から見ると、初代の島津源蔵の時代から発明は同社の初心であった。もう一つは製品への認識である。快適で使う人に優しい製品だけが消費者から好まれ、同社の医療計器のサイズ、色、ひいてはシールに至るまで、いずれも消費者への配慮を感じることができる。

また京都大学は古都の京都にあるため、きっと歴史的な重みや昔ながらの厳しさがあるのだろうと私は考えていたのだが、実際に足を踏み入れて、この日本ひいては世界でもトップクラスの大学の自由な精神に私は心服させられた。校門の看板は学生たちの心の声をありのまま表現しており、キャンパス内では「自由の学風は京大の憲法である」というキャッチフレーズが掲げられていた。これこそ京都大学の自由な精神である。正にこうした自由な精神により、京都大学の教員や学生たちは一つの分野だけに縛られず、未知の領域へと挑戦し、革新を続けることができるのだと私は感じた。その他心から敬服したのは、科学や知識、研究への研鑽ぶりであり、ここでは皆が落ち着いて、慌てず、目の利を求めることなく、純粋に研究に打ち込んでいる。これは私たち現代の若者に最も欠けている精神である。

日 付：5月25日（水）2日目

大学名： 對外經濟貿易大學

氏 名： 江涵

一晩の休息を経た私たちは、元気一杯に今日の企業訪問(島津製作所)と大学での交流活動(京都大学)に向かった。

午前の島津製作所では、私はこの創業141周年を迎えながらも、ますます生命力に満ちていく企業の創業の歴史と現状そして中国における事業展開の状況について理解することができた。具体的には紹介ビデオやその他の資料によって、島津製作所のビジョンまたは企業理念は科学技術で社会に貢献することであると知り、特に印象深かったのは、島津製作所が子供にも負けない好奇心と想像力で新たな技術を探求している点。また同社の医療設備の見学の際に分かった、居住区に住む子供の多さを考え医療器械へ色とりどりのシールを貼るなどの、同社の患者に対する思いやりと気配り。さらに女性の乳がん検査設備にはピンク色や快適な素材を使い女性に快適さと気軽さを与え、またこれらの設備は充電可能で移動式または機能集約型で、調節可能という点で、これらは災害救助などの緊急時に特に適しており、こうした常に利用する立場の人を思いやる精神と実際の企業としての行動にはとても感銘を受けた。

そして京都大学の学生との交流では、「自由な学風、革新の精神」とは何かを身を以って感じるなど、世界の一流大学としての京都大学独特の気質を感じる事ができた。さらにグループ内討論の際は、彼らと貿易協定等の問題について意見を交わし、互いに知らない中日両国の状況について理解を深め、さらに友情を育むこともできた。

日 付：5月25日（水）2日目

大学名： 北京第二外國語學院

氏 名： 鄒璐璐

日本での2日目は、とても慌ただしい一日であった。

朝、朝食を済ませると私たちはすぐに島津製作所への訪問に向かった。そしてこの140年あまりの歴史を持つ企業において、私は科学技術のすごさと発展スピードの速さを体感した。「科学技術で社会に貢献する」を目標とし、人類社会に貢献する製品を次々に産み出している他、同社はすでにグローバルスタンダード企業となっている。同社の田中耕一氏は様々な困難を乗り越えノーベル賞を受賞するなど、こうしたチャレンジ精神は同社の発展を今日まで支え続けている。同社が持つこうした精神は、私たちが学びそして再認識すべきものである。

お昼は日本の懐石料理に舌鼓を打ち、日本の食文化についてさらに理解を深め、庭園の優雅な環境を堪能した後、私たちは日本の最高学府の一つである京都大学を訪れた。京都大学の学生との交流を通じて、私たちは教育問題を深く考え、中日間の教育の違いについて考えさせられると同時に、長所を学び短所を補うことの重要性を認識し始めた。また当然ながら今回の交流では日本の教育制度と現状について理解を深めた他、自分たちの国における教育の問題点がより明確になり、今後そうした問題の解決方法を探ろうという気持ちになったのである。

その日の夜、京都大学の皆さんは私たちのために懇親会を催してくれた。懇親会の席上、私たちは数人の日本人学生と歓談し、友情を育むことができた。私たちは歓談を通じて互いを知ると同時に自分自身を高めることができた。交友範囲が広がっただけでなく、自分の思考や心も豊かになった。

今日は沢山の収穫があった。明日がまた楽しみである。

日 付： 5月25日 (水) 2日目

大学名： 北京工業大学

氏 名： 楊中清

初日は午後と夕方の日本を体験できたが、今日は自分の足で日中の日本を探索することになる。

朝はホテルのビュッフェの美味しい食べ物に誘われて目が覚めた。そして食事の際、私は改めて日本人や外国人の、率先して食事のルールを守るという素養の高さを感じた。彼らが自然と一列に並んで朝食を取っている様子は中国のそれとは全く異なっていて、印象深くまた改めて色々と考えさせられた。

朝食の後、私たちは島津製作所での見学となった。その際、島津製作所側からきれいなハガキを記念として頂いたが、このハガキは彼らの熱意や真摯な態度だけでなく、島津製作所の輝かしい功績も表していた。島津源蔵氏は本当に偉大な企業家であり発明家であり、また開拓者である。祖国の未来のための科学研究における彼の気力や決意に私は心から敬服した。無から有へのプロセスにおいて彼はいかなる困難をも克服し、ついに実験室での科学研究を大きく推進する精密実験計器を開発したのである。これはどれほどの常人では考えられない根気であろうか。島津源蔵氏だけでなく、その息子である二代目島津源蔵氏も島津製作所の100年以上の安泰のために確実な基礎を構築した。小学校しか出ていないにもかかわらず、彼は探求を好み、進んで新たな物事を開拓し、数百件の発明をしたのである。これはなんと偉大な功績であろうか。そして彼の成功は、私から見て、その一部分は彼自身が目と心の両方で生活に注目したことに起因している。なぜなら彼の発明の多くは生活における些細な現象で、一般の人々は気が付かない現象と密接に関わっているからである。

午後、私たちは世界的にも有名な京都大学へやってきた。そこではまず京都大学の韓教授と家本教授からの歓迎のあいさつと京都大学の紹介があり、私はその紹介を通じて京都大学への理解を深めることができた。

続いてグループ討論のコーナーとなり、私たちは複数のグループに分かれて討論を始めた。私たちのグループのテーマはエネルギー問題であった。討論の際、グループ内の京都大学の学生はとても意欲的に私たちと交流をし、私たちはすぐに打ち解けることができた。そして最後に互いの連絡先やEメールを交換した。私たちはきっと良い友人になれるだろう。また討論においては、問題に対する彼らの考察や解決方法は私にとって大きな啓発となった。彼らは私たちがよく使う文字の手段だけでなく、さらに図表も上手に運用し、モデルを描いて問題を解決するのであった。これは私に新たな道筋を教えてくれた。

夜になり、私たちは京都大学での食事とさらに懇親会に参加した。その席上では新たに多くの日本人学生と知り合

うことができ、とても嬉しかった。そして全ての活動を終え私たちが京都大学を離れる時になり、とても名残惜しい気持ちになった。また会いましょう、皆さん。

今日は本当にたくさんの魅力が詰まった一日であった。皆さんに感謝します！

日 付： 5月26日（木） 3日目

大学名： 清華大学

氏 名： 陳文鋸

今日のスケジュールは主に「感受日本」で、日本の風土と人情、自然景観そして温泉の体験であった。朝、私たちは車で嵐山の見学に向かった。嵐山には周恩来総理の記念碑があり、それには当時周総理が嵐山を訪れた際に詠んだ詩が刻まれている。私たちの今回の訪日も中日友好の懸け橋としての役割があり、この詩碑を目の前に私は、中日両国間には文化的な共通認識や同じ儒教の伝統があるのだから、友好的な交流を通じた共同発展を模索すべきではないかと思った。その後私たちは金閣寺を見学した。金閣寺ではいくつか御守りを買って、そして日本の寺院文化を体験した。御守りは中国でいうところの平安符に似ている。私は、御守りに家族の健康と自身の学業成就、そして円満な交友関係への願いを捧げた。

午後私たちは日本の新幹線を体験し、京都から一路三島に向かった。新幹線は中国の高速鉄道と良く似ていた。私は高速鉄道の恩恵を受けた沿海都市の一つである温州の出身のため、新幹線に対しては一種の親しい共感を覚えた。それでも一つ変わっていると思ったのは、日本の新幹線にはセキュリティチェックを設けておらず、これにはどのように運行における安全を確保しているのかとも不思議であった。

そして夜になりホテルに到着したが、私にとって最も印象深い一晩であった。眼前の玉簾神社を見ながら夜風に吹かれ、そして滝の流れる音を聴きながら露天風呂に浸かった時の私は、全身からリラックスすることができた。

こうした一晩を体験できたことに感謝します。ありがとう！

日 付： 5月26日（木） 3日目

大学名： 中国人民大学

氏 名： 倪楠

今日私たちは京都から箱根へ向かうため、朝早くに起きて荷物を整えた。そして朝食を済ませてから今日のスケジュールが始まった。

午前私たちはまず嵐山に向かった。大堰川の川岸に沿って山を走っていくと、道中の一方では色とりどりの草花で飾られたとてもきれいなお店、もう一方では水鳥や鯉などが生息する大堰川を見ることができた。素晴らしい自然環境は人を心地良くするものであり、私は修学旅行に来ているような気がした。しばらくして周恩来記念碑にやってきた私たちは、周総理が嵐山を訪れた際に詠んだ「雨中嵐山」を記念碑の前で朗読し、記念撮影をし、中日友好に貢献された人々へ思いを馳せた。その後、私たちは嵐山で抹茶アイスクリームを食べたが、抹茶の香りとアイスクリームの冷たさはとても爽快であった。暫くの休憩の後、私たちは金閣寺へ向かった。

京都は日本でも数百年の歴史を持つ古都であり、文化的雰囲気の色濃く残っており、神社仏閣も多く、金閣寺はその中でも最も有名である。ここには大勢の観光客の他、見学に訪れる多くの日本の小中高生もいて、人の多さは私に中国の国慶節連休を思い起こさせた。寺院内で私たちは、美しい絵巻のような鏡湖池に映し出された金色に輝く金閣寺を目の当たりにした。その他、ここでは京都のお土産や家族そして友人への御守りを購入した。

午後、私たちは新幹線で京都から三島に向けて出発した。はじめて日本の新幹線を体験し、私は内心興奮していた。車両の走行は安定していて、大きな揺れもほとんどなく、車両内はきれいで広く、手足を伸ばすのに十分なスペースがあった。これは個人的に印象深い点であった。

新幹線を降りた後、私たちは恩賜箱根公園から芦ノ湖の美景を堪能し、その後この日宿泊する天成園に到着した。そして会席料理を体験し、懇親会を催し、日本の温泉を体験して楽しい一日が終わった。

日 付： 5月26日（木） 3日目

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 黄静

今日のスケジュールはとても気楽で楽しいものであった。嵐山の周恩来記念碑を見学した後、私たちは金閣寺を訪れた。その後私たちは三島に向かう新幹線「ひかり」号に乗り、今回の訪日で最も楽しみにしていた活動の一つである温泉体験に向かうことになった。京都の美食と美景は名残惜しく、持ち帰れない美景は脳裏に刻み、持ち帰った美食は私たちの家族や友人のためにとっておくことにした。たくさんの思い出と共に、私たちはまた新たな旅を始めた。

箱根の山道は曲がりくねっていた。山間の優美な景色を眺め、そして運転手さんの運転技術に驚きながら、芦ノ湖の雄大な景色を堪能した後、私たちは天成園ホテルに到着した。

日本の温泉は中国の温泉とは大きく異なり、外で身体を洗ってから温泉に浸かる。露天風呂の中で暖かな水流を感じながら、空に広がる星々を堪能し、森の清らかな空気を吸うと、日本の生きとし生けるものにさらに一歩近づけた思いがした。

日 付： 5月26日（木） 3日目

大学名： 北京第二外国語学院

氏 名： 許禄野

今日は訪日の3日目で、今回の訪問で最もリラックスした一日であった。まず嵐山を訪れ、周恩来記念碑の前で熊璋さんによる周恩来総理が詠んだ「雨中嵐山」の朗読を聞いていると、総理の当時歩かれた道を歩いたことへの感激がこみ上げてきた。周総理と北京第二外国語学院とは切れない縁がある、というのは、当時周総理の意向の下で創設されたからである。そのため今日の周恩来記念碑への訪問は、北京第二外国語学院の学生にとっては特に感激するものであった。また嵐山の景色も趣のあるもので、川底が見えるほど透き通っている川の水のせせらぎ、そして周囲には植物が鬱蒼と茂っている。この嵐山からは日本における植物のカバー率の高さがうかがえる。私はちょっと変わった比喩表現を思いついた。上空から見ると北京はビルの模型のようだが、日本を上空から見ると緑化整備された建築模型のようだと思った。

午後は楽しみにしていた新幹線に乗った。さすがに評判通りで、京都から三島までわずか1時間59分で到着した。日本の新幹線はとても静かで、また中国の高速鉄道と比べても車内はきれいで広く、座席もより座り心地が良かった。その後芦ノ湖を遊覧したが本当に景色が良かった。少し残念だったのはこの日は少し曇りの天気だったため、逆さ富士を目にすることができなかったことである。ただそれでも山々は独特の風格があり、それらの山々が湖を囲み、さらにかすかな雲がかかる様子は桃源郷のようであり、また時折鳥が上空を旋回する様子は、「海闊凭魚躍、天高任鳥飛（魚や鳥が自由に動き回れるほどの大自然の限りない広さ）」の感覚を思い起こさせた。ここの静寂はとても素晴らしかった。

夜は会席料理を堪能し、仲間たちの歌やダンスを楽しんだ。皆はとても芸達者で本当にうらやましい。この後は温泉体験で、とても楽しみにしている。

日 付： 5月26日（木） 3日目

大学名： 中央民族大学

氏名：鄭縁童

2日間の企業訪問を体験した私たちの今日の主な活動内容は、日本の歴史や文化体験である。朝早くに私たちはホテルから嵐山に向けて出発した。

嵐山への道中、私たちは車窓を隔てながらも自然の息吹を感じることができた。緑の山ときれいな水に囲まれ、人の多い都市部に比べて、世俗から離れたようなこのすべては心地良く、静かな林道から時折鳥の鳴き声が聞こえる様子はとても和やかで落ち着いた雰囲気を醸し出していた。道沿いに山を登り、私たちは周恩来記念碑を見学した。そして雨中嵐山の詩から周恩来総理の両国友好への切なる願いを感じた。そしてこれもまた私たちに今回の訪日の目的をあらためて教えてくれた。ただ見学をするのではなく、中日両国の友好に対して自分自身の貢献をし、この貴重な友情を大切にすることがより重要なのである。

午後、私たちは新幹線で三島へと向かった。三島に到着後、私たちはバスに乗り換え芦ノ湖に向かった。本来恩賜箱根公園からは富士山が見られるのだが、この日はちょうど天候がすぐれず曇っていたため、雄大な富士山の姿を目にすることはできなかった。それでも眺望台から高い山々が芦ノ湖を囲んでいる様子を見て、私たちは大自然の偉大さに感嘆せずにはいられなかった。

夕刻になり私たちは長い山道に沿って湯本温泉の天成園に到着した。ホテルでは会席料理に舌鼓を打ちながら各大学の出し物を観賞した。皆が歌ったり踊ったりする様子からは、数日前とは違い完全に打ち解けていることがわかった。

夕食の後は待ちに待った露天風呂を体験し、一日の疲れを癒した。皆も良く眠れることを願っている。

日付：5月26日(木) 3日目

大学名：北京工業大学

氏名：楊中清

日本に来てからの毎日はすべてが新しい一日で、毎日様々な収穫があった。今日は目的地に移動するため、私たちは朝早く起きて荷物を整えたが、何の不满も疲れも無かった。なぜなら豪勢な朝食が待っていたからである。

朝食を済ませた私たちは、京都での最後の訪問地である周恩来記念碑と金閣寺へ向かった。周恩来記念碑へ向かう道中、私はあらためて日本の環境の美しさを体感した。地面にはゴミひとつなく、あるのは木の葉、木の枝そして花びらであった。この他、今の時期は日本の学生の修学旅行の時期に当たり、バスの中から路上を歩く学生の集団を見かけた。その彼らは道で見知らぬお年寄りに出くわすと皆会釈をして挨拶をしていたのである。これには私は本当に驚かされ、彼らに対し心から感心した。そして周恩来記念碑に到着し印象深かったのは、周囲の緑豊かな山と土手の傍を流れる川の水であった。山は高くはないがとても緑豊かで、川の水はきれいな青緑色で、見ていてとても心地良かった。

周恩来記念碑の前に立った私たちは、周恩来総理の中日友好を末永く続けなければいけないという思いを直に目にした。

記念碑の見学を終えた私たちは山を下り、抹茶アイスクリームを食べ、皆とても嬉しそうだった。

その後、私たちは金閣寺にやってきた。ここは特色ある寺院で、まず通ってきた道に戻ることはなく、入口から入り、出口から出るという二つのゲートがある。次に、金閣寺は社で願掛けができるためここを訪れる人は非常に多く、京都で最も人が集まる場所だと思った。中に足を踏み入れ、私たちはまず金閣寺が湖面に逆さに映る美しい「逆さ金閣」の様子を写真に収めた。そして私は山を登り無事と幸福を祈った。心の中は幸せと希望に満ちていた。

そして時間はあっという間に過ぎて、お昼私たちは日本料理に舌鼓を打ち、その後新幹線に乗るため京都駅にやってきた。駅構内には映画館や様々なショップなどあらゆる設備があり、日本の常に利便性を考えるというモットーを感じることができた。2時間の乗車の後三島に到着した私たちは、まず恩賜箱根公園を訪れた。ここはまるで大自然における天然の空気バーのようで、湿度が高く、空気がとても新鮮で、樹木がたくましく成長していた。またそこから遠く

を眺めると、大自然の恩恵が感じられ、心が広がる思いがした。

夜私たちはホテルに到着し、日本の浴衣に身を包み、温泉を体験した。また皆で出し物を披露し、歌やダンスを心から楽しんだ。日本は本当に魅力に満ちた場所だと思った。

日 付：5月27日（金）4日目

大学名：清華大学

氏 名：万正一

今日私たちはアサヒビール神奈川工場と伊藤忠商事を見学し、日比谷松本楼で孫中山氏と梅屋庄吉氏との革命にかける友情の故事についてのお話を聞いた。

アサヒビール神奈川工場では、ビールの生産における様々なプロセスを見学し、ホップや大麦といった原料や各プロセスにおける反応装置を目にするなどの普段できない体験をすることができた。特に瓶ビールが箱詰めされるプロセスは、自動化によりとてもスピーディーで、またインパクトがあった。そしてお昼には皆で同社のビールの試飲をしたが、普段お酒をほとんど飲まない私には、ビールの味の違いは判らなかつた。

伊藤忠商事の業務は多岐にわたる。同社は日本の五大商社の一社として、2015年度における利益は五大商社のトップであった。同社のコーポレートメッセージは「一人の商人、無数の使命」で、責任感や使命感そして社会や国への利益還元を重視している。同社での晚餐会の席上、私たちは同社のスタッフと様々な交流をした。同社のスタッフの多くは中国語が堪能で、この点からも伊藤忠商事が中国市場を重視していることがうかがえた。そのため彼らとの交流は何の問題もなく、一部の人はネイティブレベルの語学力であった。私たちは日本人の仕事の強度や東京の状況などについて沢山意見を交わし、日本人には仕事が第一で、家庭が第二という考えがあり、しばしば会社で12時間勤務をしていることを知った。それと同時に、多くの日本人は一つの企業で定年まで勤め上げることが多く、また会社がしっかりと研修を行うため、彼らの学生時代の専攻は実際の仕事の内容とさほど関連が無いことも知った。彼らとの交流を通して日本企業に関する多くのことへの理解を深めることができた。

その他私たちは日比谷松本楼を訪れ、梅屋庄吉氏の子孫の方から同氏と孫中山氏との故事についてのお話を聞いた。梅屋氏は精神的にも物質的にも孫中山氏による革命活動を支援し続けた。こうした真摯な友情に私はとても感動した。

日 付：5月27日（金）4日目

大学名：対外経済貿易大学

氏 名：江涵

皆は名残惜しそうにこの美しく快適な温泉ホテルと別れを告げ、この日の企業訪問と文化視察の活動を始めた。バスが山間の道路を走り、道路の両側は緑の木々で囲まれ、遠くに目をやってもすべてが緑色と、とても心地が良かった。天気の影響で富士山の姿を目にすることはできなかったが、逆に無限の想像の余地を私に残してくれた。次回自分が日本を訪れた際は、富士山の姿を目にできることを願っている。

午前、私たちはアサヒビール神奈川工場を訪れた。ビールの糖化、発酵、ろ過そして包装など一通りのプロセスを見学し、同社の最大の目標とモットーは「すべては、お客様の『うまい！』のために」という美味しさの追求であることを知った。消費者に新鮮でおいしいビールを届けるため、同社は進んだ技術と自動化された生産ラインを採用し、ビールは生産からわずか3日間で出荷されると知り、とても感服した。私は普段お酒を飲まないが、折角アサヒビールを訪れたので、是非同社のビールを飲みたいと思った。

午後は伊藤忠商事を訪れた。この日本の超大型総合商社での見学と交流において、私は1858年に設立された後、様々な困難に遭遇しつつも強い信念で今日まで発展を遂げてきた同社の歴史を知ると共に、同社の「三方よし

(売り手よし、買い手よし、世間よし)」、「一人の商人、無数の使命」といった経営理念に感動また心服した。また伊藤忠商事は「中国事業に精通したエキスパート」で、多くの中国語が堪能なスタッフを抱え、中国において幅広く事業展開をしている。

そしてこの日最も印象的だったのは、日比谷公園の松本楼で聴いた梅屋庄吉氏と孫中山氏の感動的な故事であった。当時中日関係が困難な時期にあっても、民間の交流は止まることはなかった。私はこれからも中日両国の交流がますます広がることを願っている。なぜなら両国は過去や未来を問わずつながりが深く、平和的な共存や利益の共有ができてこそ、各自のより良い発展が実現可能だからである。

日 付： 5月27日 (金) 4日目

大学名： 中央民族大学

氏 名： 李欣竹

箱根を離れる前に再度温泉に入ることができなかったのは残念だったが、今日のスケジュールも楽しみである。

今日の最初の訪問先はアサヒビール神奈川工場であった。アサヒビールは非常に有名で、島津製作所などの企業に比べるとより一般大衆に近い位置付けである。工場に到着すると、スタッフから温かい歓迎を受け、その後ビールの製造原理、工場の概況の紹介を受け、さらに非常に現代的な各製造プロセスを見学した。解説スタッフから工場の廃棄物は100%再利用されているという話を聞いた時は、とても驚かされた。私は日本がこれほどまで真摯に環境や資源の保護に取り組んでいるとは思っても寄らなかつた。その後皆で出来立てのビールの試飲をしたが、あまりにも美味しく、皆は10分間で3杯も飲んでしまった。こうして同社の「最高の品質をお客様にご提供する」という目標は決して口先だけではないことを改めて認識した。

楽しい焼肉でアサヒビールの見学を終えた私たちは、東京に向けて出発した。東京での最初の訪問先は日比谷公園の松本楼である。ここは日本で最初にできたフランス料理店とのことだが、それよりも重要なのは、この初代社長は孫中山氏の親友で、更に言えば、松本楼は中日友好の象徴であり、以前には胡錦濤主席もここを訪れているということである。私はこの松本楼で当時のお話を聴けることを、とても光栄だと思った。

今日は少し忙しく、その後さらに伊藤忠商事を訪問したが、そこでは私は皆さんの中国への熱意に心を打たれてしまった。ほぼすべてのスタッフが中国語を話すことができ、会社の規模は、中国でも日本でも非常に大きく、中国人学生の加入を心から願っていることが明らかに見て取れた。そして同社への理解を深め、スタッフの皆さんと夕食を共にした後、個人的には同社へ大きな興味が湧いた。

こうして充実した一日も終わったが、今晚のホテルはとても高級で感動した。そして自分は恵まれていると思った。そして赤坂をしばし散策して、東京の夜の華やかさを体感した。

日 付： 5月27日 (金) 4日目

大学名： 北京工業大学

氏 名： 于鑫淼

私はかつて燕京ビールの工場を見学したことがあり、今日はアサヒビール神奈川工場を見学した。二つの工場はいずれも自動化の生産ラインを採用しているが、唯一違ったのは、工場の廃棄物処理についてである。アサヒビールでは原材料の資源利用は100%に達しており、工場ではごみを50数種類に分類している。また、ビールの生産工程において生じる排出物はスタッフの制服の原料の一部にもなっているという。アサヒビールは127年の歴史があり、この間様々な改革をしてきたが、その中でも変わっていないのはスタッフの仕事へのひたむきさである。アサヒビールは専門の検査スタッフを配置し、日々生産されるビールの味をチェックしている。またアサヒビールは環境保護事業のテーマとして「自然の恩恵を明日へ」を掲げている。

日比谷松本楼では、孫中山氏と梅屋庄吉氏の深い友情について理解を深めた。「君は兵を挙げよ、我は財をもって支援す」、これは彼らの間に交わされた盟約であり、梅屋庄吉氏は辛亥革命による清政府打倒に非常に大きな貢献をされた。

伊藤忠商事では、役員およびスタッフから温かい歓迎を受け、非常に有意義な交流を行った。また同社の大部分の人が流暢な中国語を話し、中国文化が好きとのことであった。伊藤忠商事のコーポレートメッセージは「一人の商人、無数の使命」である。またかつて業績不振の際に、同社は資源以外の分野への大規模投資に素早く転換を図り、リスク管理を強化した。たとえ企業の危機的状況であろうと、正しく対応することで、それは良い方向へ進む転換のチャンスとなることを知った。

伊藤忠商事には多くの子会社や関連企業があり、製品は様々な分野にわたっている素晴らしい企業であった。

日 付： 5月28日（土） 5日目

大学名： 清華大学

氏 名： 李維唐

とても楽しみにしていたホームステイだが、当初ホストファザーが64歳のおじいさんと知り、頭の中が真っ白になり、融通がきかず面白みに欠けるのではないかと思っていたが、結果的に彼は私に大きなサプライズをくれた。

最初は彼の身分である。当初私は彼が一般のサラリーマンで、今回ホームステイを引き受けたのだと思っていたが、実は某企業の社長であった。50数カ国を旅したことがある社長の様子など、私に微塵も感じさせなかったのである。

二つめは彼の中国語である。私たちは当初英文メールでやりとりをしていた。事前に私が受け取った資料では日本語と英語が話せるとだけあったが、実は彼はここ4年間、毎週中国語のクラスに通い、毎日中国語を学んでいたのである。そのため彼の中国語のレベルは中国において中国語だけで生活ができるほどであり、私たちの英語や中国語での交流は何の問題も無かった。

三つめはホストファミリーのおもてなしである。これはあらゆる面で感じられたが、印象深かったのは贈り物である。ホストファミリーのお宅にお邪魔してすぐ、ホストファザーは私に一枚の記念硬貨をくれた。それは中国銀行が1979年に発行した外貨兌換券で、友誼商店での買い物に利用可能なものであった。そこで私も準備していた贈り物である劉備、関羽、張飛の3つの木製のくしを彼らに渡した。するとホストファザーはさらに歯ブラシからボールペンまで様々な小物が詰まった大きな袋を私にくれたのである。その時私はあっけにとられてしまった。

またその他にも、優しいおばあさん、きれいな娘さん、優秀な娘婿さん、そして三国志の物語など様々な嬉しい驚きがあり、今日はとても楽しい一日であった。それからお昼に食べた美味しいラーメンも忘れられない。三好敏裕さん、有難うございました！

日 付： 5月28日（土） 5日目

大学名： 中国人民大学

氏 名： 倪楠

最も楽しみにしていた2日間のホームステイがいよいよ始まった。

私のホストマザーである森さんが足に怪我をされたため、彼女は同僚の西山さんに私の迎えを頼んでいた。そして私の他、北京工業大学の団員一人とともに遊覧に出発した。まず私たちは浅草寺に向かった。浅草寺のおみくじは良く当たると聞いていたので、歩行者用道路を過ぎて本堂の前までやってきた私は、待ちきれずおみくじを引いたところ、吉を引き当てた。おみくじに書かれている様々な良い兆しに、私はとても嬉しくなった。お昼は西山さんの案内の下、大阪名物の「お好み焼き」を食べた。店員さんが持ってきたお椀の中にある野菜や肉そして生地をかき混ぜて鉄

板の上へのせ、中国の煎餅のように焼いて食べるのだが、味も美味しく、焼く作業もとても楽しかった。午後私たちは上野公園を散策した後、東京駅の書店や文具店をまわったが、西山さんは常に親切にいろいろと教えてくれて、とても楽しく見物をする事ができた。

夕刻私はJR線で豊田駅に到着し、駅から出るとすぐに「熱烈歓迎」のプラカードを掲げた森さんとその弟さんの姿を見かけた。足に怪我をしているのに、松葉づえをついて駅まで迎えに来てくれたことに私はとても感動してしまった。そして皆さんと挨拶を交わした後、私たちはスーパーに夕食の食材を買いに行った。ついに日本の家庭での生活が始まった。メロン、ぶどう、トマト、お刺身、たこ、牛肉、てんぷらなど私たちはカゴいっぱい買い込んで帰宅した。ホストマザーの勧めで、私は先にお風呂を済ませて戻るとホストファザーは沢山の料理を準備してくれていた。そしてホストマザーからは、生わさびのおろし方から手巻寿司の作り方まで教わり、日本の家庭での和式の夕食を楽しむことができた。またこの日はちょうどホストマザーと旦那さんの24回目の結婚記念日で、ビールを片手に美味しいお寿司や焼き肉を食べながら多くの話題に花を咲かせ、楽しい夕食の時間を過ごした。その後、私は後片付けを手伝い、ごみの分類を学んだ。そして北京から持ってきたお菓子を皆さんと食べてから、明日の活動に備えて休息となった。

日 付：5月28日（土）5日目

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 王雨薇

今日はホームステイの初日で、私はついにホストファミリーのお父さんとお母さんに会うことができた。

そしてとても驚いたのは、ホストファザーであるテルモの三井さんは中国で12年勤務されていたので、中国語が非常に流暢で、私たちはより深い交流ができたということであった。

そして話をしていくうちにさらに驚いたのは、三井さんは私と同じく伝統文化が好きであったということである。そのため私たちは伝統文化への愛着が故に北京を愛し、また故宮、頤和園、琉璃廠などはいずれも共にお気に入りの場所であった。こうした思いがけない共通点により、三井さんがプランを立てた今回のスケジュールに私は「一目惚れ」してしまった。

浅草寺や皇居といった場所は言うまでもなかったが、思いも寄らなかったのは、三井さんが私を川崎市の「日本民家園」に連れて行ってくれたことである。

民家園内の建物はいずれも日本各地における各時代の実際の民家を移築したもので、民家園に足を踏み入れると、まるでタイムマシンに乗って明治時代や大正時代といった異なる時代を自由に駆け抜けているような感じがした。

正直に言うと、これは私がこれまで全く知らなかった東京の一面で、これほど歴史のある面白いものを目にすることができるとは思いも寄らなかった。今回のホームステイの割り当ては多分天意だったのであろう。

日 付：5月28日（土）5日目

大学名： 北京第二外国語学院

氏 名： 熊瑋

なんと言うべきか、今日の気分は少し複雑であった。実のところ、自分のその複雑な思いをここに書いていいのかどうかも分からない。しかし正直な気持ちを書くということなので、私はここを自分自身の日記として、思ったことを書きたいと思う。昨日の伊藤忠商事訪問の際、私はホストファザーの沼尻さんと会うことができた。その時彼は直接また正直に彼の考えを教えてくれた。それは、彼の家族には中国人に対しての誤解があり、中国人は怖く、煩わしく、付き合いにくいと思っている。そのため彼はこの機会を利用して彼の家族に本当の中国人はどういうものなのかを知って欲しいというものであった。その他、明日は北海道旅行から戻る長男の出迎えや、昼12時半からの次男の運動会があるため予定が埋まっていて、初日については私個人のための別の予定は組んでいないとのことであった。それを聞いた私は

気持ちが半分冷めてしまったが、それでも今回は友好交流ということもあり、その後も色々とおしゃべりをした。そのため、今日私は不安な気持ちでホームステイの初日を迎えたのである。

他の団員が様々な観光地を回るのに比べ、私の方はごく簡単なものであった。まずは道路標識と交通ルールを学び、その後とある神社へ行った。ただ最も印象的だったのは息子さんの運動会であった。赤、青、白のチームに分かれた小学生たちが、自分たちのチームの榮譽のため一生懸命に努力している様子に、私はとても感動した。6年生の学生が体操を披露している時沼尻さんは、これは彼らにとって小学生最後の運動会だから、皆絶対負けないという気持ちで頑張っているのだと教えてくれた。そして最後に6年生の学生による組体操を見た時、私たちは皆涙が溢れてしまった。

楽しさと感動があり、もちろん疑問もあった。

さあ、あしたは？

日 付： 5月28日（土） 5日目

大学名： 中央民族大学

氏 名： 龍順欣

今回の8日間のスケジュールの中で、私が最も緊張するのはホームステイである。なぜなら異国の地で見知らぬ家庭に入り生活をするため、何か失礼なところが出てくるのではないかと不安だったからである。しかし、お話をするとすぐホストマザーがとても優しい人だと分かった。そして事前に色々予定を組んでくれていた。浅草寺の人の多さには、北京の前門のようななつかしさを感じた。

そして最も楽しかったのは東京国立博物館の見学であった。そこでは本物のミイラや中国関連の展示品などを見かけた。そして本館ではこれまで書籍でしか目にすることがなかった日本の文化遺産を直に見ることができた。ただ時間の関係でゆっくり見られなかったのは少し残念であった。

私はこれまで日本のゴミの分類にとっても興味を持っていた。そのため、帰宅後私はまず日本の家庭のゴミの分類方法についてたずねた。そして船橋市においては、ごみを5種類に分けており、各家庭においてハンドブックに記載の要件に従ってごみの分類をしているとのことで、一般の日本人の環境保全への責任意識の高さを知ることができた。その後私たちはホストマザーのお母さんの家で夕食となった。現在高校三年生の息子さんとホストマザーのお父さんは興味津々で私と中国の唐詩や三国時代の歴史についておしゃべりをした。しかし私の日本語のレベルの問題でうまく話せないところについては、漢字を見れば互いに意味は分かるので、紙に書いて説明をした。世界でも日本以外にこうして中国人と親しく交流できる国はないと思った。

日 付： 5月28日（土） 5日目

大学名： 北京工業大学

氏 名： 尚芳

今日は特別な日である。この週末、私はホストファミリーと共に過ごし、現地の日本人の生活を体験するのである。

西山さんは私のホストファザーであり、私が日本に来る前からラインを交換し、私の希望などを聞いたうえで細かいスケジュールを作り、あちこち私を案内してくれた。まず私たちは都内でも長い歴史を有する浅草寺へ向かった。そこは北京でいうところの南鑼鼓巷に似たところで、多くの特徴的な商品を売る小さなお店が立ち並んでいた。その後私たちはドラッグストアに向かった。そこは値段がとても安く、西山さんがわざわざ事前に調べてくれた場所であった。その他私たちは東京スカイツリーなどのスポットを巡り、記念写真を撮った。私は西山さん自身も自撮りが大好きなのだろうと思った。

夕刻になり私は西山さんのお宅に到着した。そこではホストマザーがとても温かく歓迎してくれ、夕食として焼肉をご

ちそうになった。そして私が中国から持参したお礼の品を二人にプレゼントすると彼らはとても喜んでくれた。その後私たちは夜遅くまで色々おしゃべりをして休息となった。お互いに中日の文化などについて知ることができ、私はとても貴重な沢山の知識を得ることができた。

日 付： 5月29日（日） 6日目

大学名： 清華大学

氏 名： 王宝源

ホストファミリーと共に過ごした2日間で、私は加藤さんご夫婦と深い友情で結ばれた。

日本は先進国の一つであるが、その発展度合は生産力といったものだけでなく、それ以上に日本人の生活様式や社会秩序に表れている。加藤さんの奥さんのお話を通じて、私は、30年前の日本は現在ほど秩序立ってはおらず、人々も現在ほど礼儀正しくはなく、また現在ほど列をしっかりと作ることもなかったが、その後数十年の発展において日本は次第に調和が取れてきたことを知った。現在の中国はあるいは以前の日本に少し似ているかも知れない。中国は経済の高度成長期にあり、全体的な経済力としてはすでに日本を超えたが、中国の発展はバランスの悪い発展と言わざるを得ず、今後中国としては生産力や核心技术の研究開発以外に、さらに市民生活を重視したよりバランスのとれた発展をしていかなければならない。

この日、私はホストファミリーとともに東京スカイツリーや銀座を見学した。お昼は銀座でラーメンを食べた。以前から日本のアニメなどを見ていて、是非日本のラーメンを食べたいと思っていたが、今日ついにそれが叶った。その味は想像していた通り美味しかった。

しかしながら今日は加藤さんご夫婦とお別れをしなければならない日である。2日間の交流において彼らは私の父母のようであった。私たちはお互いに腹を割った交流をし、そして楽しく遊んだり買い物をしたりした。お別れは辛いですが、私たちは互いに深い友情で結ばれた。そして私たちは、次回加藤さんご夫婦が北京に来た際、または私が再度東京に来た時の再会を約束した。

日 付： 5月29日（日） 6日目

大学名： 中国人民大学

氏 名： 鐘錦涛

昨晩はよく眠り、ホームステイの2日目が始まった。朝、目が覚めるとホストマザーが朝食の準備をされていて、ホストファザーは花へ水をやり、また魚へエサをあげていた。実際のところ、中国と日本そのものの違いを除けば、各家庭の生活自体はこまごまとし、また平凡でありとても良く似ている。私はここから、日本と日本人を見る際は様々な角度から理解そして体感し、国籍だけでなく、その人自身、職業、年齢など多くの角度から日本を感じなければならないと思った。

朝食を済ませた後、彼らは先祖から受け継いでいる着物を取り出して私に着せてくれ、日本の伝統服飾文化を直に体験させてくれた。この他、コーヒー豆の挽き方やその他様々な便利でユニークな道具の使い方を教えてくれた。その後、私たちは近所の市場で買い物をし、普段の生活を体験した。

今日最初に訪れたのは上野公園にある東京国立博物館で、主に縄文時代以降の日本の美術作品を見学し、美術の視点から日本の歴史を知りとても有意義であった。その後の時間は上野公園内で日本各地の特産品を食べた。そして16時に彼らは私をホテルまで送り届けてくれて、今回の短くも楽しいホームステイ生活が終わった。

「走近日企・感受日本」は今回の訪日のテーマであるが、私はホームステイこそが「感受日本」におけるもっとも重要な活動だと思う。日本の一般家庭において彼らの日頃の生活を体験でき、私は心から日本という国に感動した。そして彼らの生活の中また側面から日本人の生活への態度や、人々そして物事への態度を垣間見た。「其の善なる者を扱ひて之に従う」、中国人が日本人に学ぶというだけではなく、一個人としての学習と進歩が知らず知らずのうちに自

分を変えていくのである。「感受日本」とは、この国のみならず、一般市民の生活を感じることである。

日 付：5月29日（日）6日目

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 呉佳芮

時間が過ぎるのは早く、ホームステイも終わろうとしている。柴田さんご夫婦との2日間の交流では、一緒に遊んだり写真を撮ったり、また浅草寺や東京タワーに行くなど私は彼らからのもてなしの気持ちと中国への好感を強く感じた。

今日の朝、とても面白いことがあった。柴田さんの家の前には公園があるのだが、毎年一度掃除イベントが行われ、私も運よくそれに参加したのである。そして朝の9時になり、近所の大人や子供がそれぞれビニール袋片手に元気一杯にごみ拾いを始めた。しかし困ったことに、私は10分以上歩き回ってもごみ一つ見つけられない程、そこはきれいだったのである。また彼らは、おもちゃのピストルの小さな弾ですら一つひとつ拾っていた。日本の道路がきれいな理由を私はついに知ることができた。

お昼はホストマザーと一緒にご飯を作った。日本の台所は調理器具や食器などが沢山あるが、皆きれいに並べられていて、とても整然としていた。料理をする際も日本人の繊細さに気が付いた。15mLは15mLで、それより多くても少なくてもだめなのである。また彼らのごみの分類はユニークで、週に一度回収されるが、もし分類が違っていれば、そのごみは一度持ち帰り、自宅に一週間置いておかなければならない。そのため、皆はルールに従い慎重にごみを分類しているのである。

2日目のホームステイ体験もとても楽しく、お別れがとても辛かった。また会えることを願っている。

日 付：5月29日（日）6日目

大学名： 北京第二外国語学院

氏 名： 胥珂

今日はホームステイの2日目、朝ホストファミリーのお父さん、お母さんそしてえりこさんは私を連れて散歩に出かけた。お父さんはまたカメラを持参し、道すがら私たちを写真に収めていた。私は我孫子市の生態環境はとても素晴らしいと思った。散歩の途中には様々な鳥、魚を見かけ、またハクチョウやコハクチョウまで見かけた時はとても驚いてしまった。路上の人々は皆のんびりとし、また表情からもとても嬉しそうで、静かな生活を楽しんでいるようであった。また東京ほど賑やかではないが、生活の息吹に満ち、生活に適した場所である。しかも、ここの人々は草花を愛し、ほぼ各家庭では庭先に様々なきれいな花を植えていて、生活への情緒が感じられた。

小田さん一家には、今回着物と茶道の体験を手配いただいて心から感謝している。教科書の知識やドキュメンタリーで観た物を直に体験し、深く日本の文化について知り、多くを学ぶことができた。先生もまたとても友好的で、着物の着付けの方法、そして「止め石」とは何かなどを教わり多くの収穫があった。日本文化には本当にたくさんの面白さがある。ただ、楽しい時間はあっという間に過ぎていくもので、午後2時過ぎには、皆と集合し次の目的地に向かうためホテルに戻らなければならなくなった。お父さんは今回の思い出を残していけるようにと、撮り終えた写真を全て現像し私にプレゼントしてくれた。そして最後にホテルでお別れをする際、私はえりこさんと抱擁を交わし、北京での再会を約束し合った。

この2日間私は本当に幸せだと思った。今回の8日間の訪日交流の他、ホームステイではとても親切な日本人とめぐり合えたのである。本当にありがたいです！

日 付：5月29日（日）6日目

大学名： 中央民族大学

氏 名： 申成日

ホームステイの2日目。朝食は皆でトーストを食べたが、ホストマザーは朝早くに起きて朝食の準備をし、ホストファザーは日本のテレビドラマのように届いたばかりの朝刊を読んでいた。私はホストファミリーをととても羨ましく思った。

午前、私は子供たちと勉強半分そして遊び半分の日本の子供式の時間を過ごした。遊びの際は彼らが真剣に教えてくれ、勉強の際は私も真剣に教えた。私たちの間には何の隔たりも無くとても楽しかった。私たちは8時に家を出発して目的地の新宿に向かった。またその途中では代々木公園にも立ち寄った。ここは本当の意味での公園で、子供たちは遊び、大人たちは陽の光を浴びていた。学生たちはサッカーなど球技に打ち込み、また時折デートをしている若いカップルも見かけた。中国ではこうした公園はあるかを考えても正直なところ思い浮かばない。私はこうした彼らのライフスタイルにととても憧れている。

昼食の時間になり、私たちは新宿のうどん屋にやってきた。ここで私はカレーうどんを注文したのだが、本当に忘れられないほど美味しかった。その後私たちは展望台に行き、そこから東京を一望した。様々な建物がひしめいていて、道路がほとんど見えなかった。これには、この都市がどのようにこれほど多くの人々を抱えているのかを知った思いがした。

楽しい時間はあっという間に過ぎるもので、1日半のホームステイも間もなく終わろうとしていた。彼らは私をホテルまで送り届けてくれ、お別れの際は私にプレゼントまでくれた。その時私は、見ず知らずの私に彼らがこれほどまで親切にしてくれたことに、感動のあまり涙が止まらなかった。今その情景を思い出しても目頭が熱くなってくる。どんなに楽しい時間もいつかは終わってしまうのである。31日にまた会いましょう。

その後お台場に行った。お台場の景色はとてもきれいだったが、ホストファミリーの笑顔ほどではなかった。おやすみなさい。

日 付： 5月29日 (日) 6日目

大学名： 北京工業大学

氏 名： 曾檬

今日はホストファミリーのお父さんとお母さんと海辺でバーベキューをし、日本の一般家庭の週末を体験し、私は日本人の仕事の際の真面目な様子と休みの時のリラックスした様子を知ることができた。

昨日私は日本人の仕事へのひたむきさを目にした。アイスクリーム店のスタッフたちは歌を歌いながらアイスクリームを作っており、しかもそれぞれのアイスクリーム毎に歌が異なっていた。皆は沢山の元気と笑顔で仕事をしていて、それは見ているこちらがまるで仕事がとても楽しいものを感じられ、アイスクリームにもそうした楽しさが込められ、味もより美味しく感じられた。もちろん仕事は仕事であり、休みの際は皆とてもリラックスするのである。ホストファザーについて言えば、彼は伊藤忠商事の社員で、昨日お会いした際はビジネスとしたスーツ姿であったが、今日の海辺でのバーベキューではとてもやさしかった。そして家ではとても良きお父さん、さらに奥さんを大切にする良き旦那さんであり、仕事においては責任感を持ち懸命に働く良き社員である。こうした責任感ほど素晴らしいものはない。

ホストファザーとの交流を通じて、日本と中国はお互いに相手への深い理解ができていないと思った。私たちはこうした民間の交流活動を強化し相手への理解を深めるべきで、そうすることで互いに学び合えるようになるのだと思った。

日 付： 5月30日 (月) 7日目

大学名： 中国人民大学

氏 名： 鄭雨奇

午前はずほ銀行を見学した。その際私は2つの感想を持った。まず、銀行のスタッフは自分の持ち場で懸命に仕事をしており、私たちの訪問の影響を受けず、自分のすべきことに集中していた。こうした職場の雰囲気はとても素晴らしいと思った。まさにこうした理由でみずほ銀行は日本の三大銀行の一つとなったのであろう。次に、銀行は絶えず新たな技術や機械を導入して、顧客へより細やかなサービスを提供していた。例えば、新型の書類記入の機械、古い通帳を新しい通帳に換える機械、可愛いロボットなどである。さすがはみずほ銀行であり、先々を見通し、時代の流れを掴み、顧客へ優れたサービスを提供している。

午後は光栄にも大使館を訪れた。そして訪日団の各学校の代表者の発表、そして薛参事官のお話に耳を傾け多くの収穫が得られた。それは主に以下の数点である。一に、中日両国の漢字には相通じるものがあるということである。かつて他の国も中国の漢字を使用していたが、その後次第に新たな文字を生み出し、漢字の使用をやめてしまった。そして現在では日本一国だけが中国の漢字を使い続けているのである。そのため中日両国には非常に密接した文化的関係がある。二に、過去だけを見るのではなく、将来に目を向けなければいけないということである。何かと過去を蒸し返すことには何の意味もなく、心配や困難といったものをもたらすだけである。過去は忘れてはならず、歴史から教訓や経験を汲み取ることは必要だが、過去にだけ囚われていてもだめなのである。また、偏った情報だけを頼りに生活していてもだめである。良くない過去に拘ることができるのに、何故友好的で素晴らしい過去に目を向けることができないのであろうか。現在でも一部の人は、日本について語る時必ず抗日戦争や尖閣諸島などの話をするが、実際には沢山の友好的な中日交流の事例が存在しており、彼らはそれが見えないまたはそれに対して注目できないのである。しかし本来は、あらゆる側面から客観的に日本を見て日本を知らなければならないのである。

最後に私たちは早稲田大学を訪れ、早稲田大学の学生との交流を行った。彼らはとても親切また優秀で、交流の際は彼らの学問に対するひたむきさと情熱を感じ、さらに彼らの私たちへの友好的な姿勢やおもてなしといったものを感じることができた。私はこうした中から中日両国の大学生の元気と活力を感じた。中日両国の大学生の働きの下、私は将来中日両国がますます発展していくことを信じている。

日 付： 5月30日（月） 7日目

大学名： 北京第二外国語学院

氏 名： 胥珂

明日には中国へ戻る、時間が過ぎるのは本当に速いと思った。今日の予定もこれまで同様ぎっしりである。午前私たちは三菱東京UFJ銀行や三井住友銀行と並び称される日本の三大銀行の一つであるみずほ銀行を訪れた。そしてみずほ銀行中国営業推進部の廣瀬部長から、みずほ銀行の他の銀行と異なる三つの特徴についての紹介を受けた。最初の特徴は、同銀行は国際業務において単独で「中国営業推進部」を開設したことで、こうした中国と名の付く体制は日本の銀行の中でもみずほ銀行のみである。二つめの特徴は、同銀行は1979年以降、毎年中国向けの金融研修コースを継続している。三つめの特徴は、銀行内部にコンサルティング部署を設置し、顧客との信頼関係を構築していることで、顧客の利益を最優先する「お客様第一」の企業理念は、みずほ銀行の業務展開をますますスムーズにしている。お昼の懇親会では、中国の深セン支店から日本に研修に来た中国人スタッフと交流し、彼らからは日本語を専攻する学生が銀行に就職するためのたくさんの方法を教わり、自分自身における新たな道筋が見つかった思いがした。

午後二時、私たちは中国駐日大使館を訪れた。そして参事官からはユーモアあふれる言葉で中日関係がどうしても「にぎやか」なのかの紹介と、両国の交流にはまだまだ潜在力が残されており、双方向の交流は持続可能なものだというお話があり、本当にその通りだと思った。双方ともに相手への情報獲得が不均衡であるため、時に大きな偏りが生まれてしまう。そのために交流が必要であり、また交流の力を信じなければならない。

その後、私たちは早稲田大学の学生との討論と交流を行った。日本の学生は私たちに親切にしてくれただけでなく、プレゼントのお返しもしてくれ、とても感動した。

日 付：5月30日（月）7日目

大学名：中央民族大学

氏 名：鄭縁童

2日間のホームステイが終わり、私たちの企業見学の活動が再開された。今日の最初の訪問先はみずほ銀行である。みずほ銀行は日本の三大銀行の一つで、中国とは密接な関わりを持ち、中国において多くの支店や事務所を構えている。銀行のスタッフの案内で私たちは業務ホールや事務区域を見学したが、書類の記入コーナーにある様々な度数の老眼鏡や案内サービスを提供するロボットのPepperなど、同銀行における全てのサービスや施設からはお客様第一の経営理念が感じられ、こうした細部からは日本人そして日本企業の繊細さや人間本位の姿勢が感じられた。

午後私たちは中国駐日大使館を訪れた。そして各学校の代表者からこの数日における感想などの発表があり、皆は様々な収穫が得られたようであった。その後の参事官からのお話を通じて、中日両国の間にあっては、対立というものは避けられないが、それでも互いの友好への情熱は、私たち皆が共に維持していかなければならないと思った。

大使館を離れた私たちは日本の著名な私立大学である早稲田大学を訪れ、同大学の学生と将来や人生設計、また興味のある書籍などについて討論や紹介を行った。こうした中日両国の大学生同士の交流は、文学の交流に止まらず、両国の文化の違いの比較であり、他国の大学生そして同年代の若者の考えを知る機会というのは非常に得難いものであった。将来彼らと再会できることを願っている。

日 付：5月30日（月）7日目

大学名：北京工業大学

氏 名：于鑫淼

2002年4月、第一勸業銀行、富士銀行、日本興業銀行の3行の統合によりみずほ銀行は発足した。みずほ銀行は世界でも最大級のフィナンシャルグループの一つとして、大企業、金融機関および海外の重点企業を主な顧客としている銀行である。

みずほ銀行は、細やかなサービス、美しい環境そしてハイテク設備を兼ね備えた銀行で、効率的で安全なサービスを提供している。金庫のドアは防弾防震構造で、内部は定温である。その他ロボットの活用により顧客の待ち時間の有効利用を模索している。こうした点からも、みずほ銀行はすでに成熟しつつも、謙虚な姿勢で更なる発展をしていることがうかがえた。

また中国駐日大使館の薛参事官からは、手厚いもてなしを受けた他、さらに中日両国の関係についての踏み込んだお話をうかがった。その内容は主に、隣国間では何らかの対立が起こることは避けられないが、互いの文字や文化は似通っており、良き隣国関係を構築する努力をしていくべきである。また過去には戦争があり、互いに大きな傷を負ったが、私たちはいつまでも過去に拘ってはいけず、将来を見据える必要がある。歴史を変えることはできないが、未来は共に創り上げることができるのである、といったものであった。

早稲田大学の学生との交流もとても楽しく、中国、日本、韓国の学生が同じ教室内で討論をし、互いに人生設計や近頃読んだ書籍などについて語り合った。もし中国、日本、韓国の三国間もこれほど打ち解けることができれば、どれだけ素晴らしいことであろうか。晩餐会では互いに日本語と英語を交え、自分の趣味や自分の学校について語り合った。そして私は三人の友人を作ることができ、互いの連絡先を交換した。これからも交流を続けていきたいと思う。

日本は成熟した国だが、またとても謙虚な国でもあり、絶えず優れた技術を開発し、またそれを有効利用している。私はこの日本という国が好きである。

日 付：5月31日（火）8日目

大学名： 清華大学

氏 名： 殷晨

ホテルニューオータニでの4日目、私たちは地下三階の環境保全施設およびリサイクルシステムを見学した。

汚水処理+余熱/熱力発電システム+最大限の「物質再生化」、ホテルニューオータニは1960年代に創業して以降、変わらず環境への優しさにおける模範的役割を担っている。ホテルにおける毎日の水や電気の消費量は大きく、資源消費が速いため、同ホテルでは、建築時から地下に小型の発電システムを作ることによって自身のエネルギー消費を最大限補っている。

同時に、毎日発生する汚水は微生物や沈殿-ろ過といった浄化プロセスを経て、新たな役割の下、水資源の節約に貢献している。

空間を最大限利用し緑化面積を増やすことで建物への「エコ降温」を行い、電力を節約し、発電時の水蒸気の余熱を厨房において再利用するなど、こうしたホテルニューオータニの環境保全意識はいずれも私たちを感嘆させるものであった。同様にエネルギー消費大国である中国では、こうした環境保全意識を持つホテルはほとんど見られない。自然界の資源には限りがあるため、これは中国の多くの企業が再認識すべき問題である。

これまでの7日間における企業見学でも、それぞれの企業が程度は異なれども、自社の社会的責任への取り組みというものを示していた。これには先進国の資源や環境への重視度合の強さというものが感じられた。しかしこうした日本においても、過去の環境悪化の弊害を経験して、初めて環境保全に目覚めたのである。そして現在、中国が直面している環境問題は多いため、一日も早く皆が環境保全を意識し、より良い地球環境構築のための貢献を積極的にしていく必要がある。

より責任感のある大国となるために、中国には行動が必要である！

日 付： 5月31日 (火) 8日目

大学名： 中国人民大學

氏 名： 于孟鑫

今日は帰国の日であり、お別れの日でもある。

午前はずまず私たちがこの三日間お世話になったホテルニューオータニを見学した。同ホテルはあらゆる側面からゲストをもてなしているため、サービスは様々な角度そしてあらゆる方面をカバーしている。また同ホテルではさらに先進的な100%のリサイクル利用を行い、資源を節約し、環境への影響を最小限に抑えている。

お昼は歓送会で、私のホストファミリーも駆けつけてくれた。お母さんは着物に身を包んでいたが、そこから彼女のこの歓送会そして私への思いが感じられた。しかもお母さんは私のために自家製のパンも持ってきてくれた。その中には日曜の朝に食べたチーズパンやその他のパンもあった。私はこの時、自分の気持ちをどう表現して良いかわからず、特に日本語ではわからなかった。今回私はこれほど優しく、きれいで、面倒見の良いお母さん、そして心優しいお父さんに出会えたことに、嬉しさと感謝を感じている。お母さんはずっと、「きんきんが一番かわいい。そんないい子を娘にしてよかった。」と言ってくれた。私はお母さんから勤勉さ、礼儀、そして生活への姿勢などたくさんを学んだ。お母さんはいつもどんなことがあろうと、その中から良い部分を見つけ、さらに生活のあらゆる場面で感謝できる部分を見つけ出しては、「よかった」と口癖のように言っていた。例えば、駐車時間が丁度1時間であったり、美味しいトンカツを食べたりした時などがそうで、常に意欲的で楽しく生活と向き合っていた。ホストファミリーとの交流の時間は短かったものの、彼らのおもてなしに対して私は言葉が見つからないほど感動した。

お別れの時は涙が止まらなかった。皆の前では泣かないよう懸命にこらえていたのだが、それでも目と鼻が赤くなってしまった。空港へ向かうバスに乗る時、それはこの8日間私たちの面倒を見てくれた中島さんと間もなくお別れすることも意味していた。皆がこうして一緒にいられたことは一つの縁であり、私たちは互いのこうした縁を大切に、さらに継続させていかなければならないと思った。

日 付：5月31日（火）8日目

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 何鑫穎

締めくくりの一日。

今日は最終日で、私は飛行機の中で今回の訪日活動や中日関係についての思いをまとめていた。

まず日本には自然とその先進的な部分があり、様々な人に優しい設計や機械によるオートメーション化、業務のプロセス化といったものは人々の生活に大きく関わっており、さらに日本人の環境に対する配慮といったものは多くの中国人が見習うべきものだと思った。

ただし、私たち自身もひたすら外国を崇拝し、自国さらには自国の文化を卑下してはだめなのである。今回日本を訪れたが、実のところ自分が思っていたほど素晴らしいというわけではなかった。日本人の中にも中国人のような振り舞いをする人はいたのである。一方で、日本人との交流ひいては中国人自身の言葉において、現在の中国の経済や環境の状況は悪いという声を聞く。しかし私は実際の状況はそうではないと思う。私たちは中国の新たな発展の原動力として、自分たちの国や自国の文化を正視し、真実の、また客観的な中国を世界に示す必要があると思う。

現在中日双方にはまだ多くの交流の可能性が存在しており、真に中日友好を実現するためには私たちが共に努力する必要がある。

日 付：5月31日（火）8日目

大学名： 北京第二外国語学院

氏 名： 許禄野

今日は訪日活動の最終日である。昨夜は寝るのが遅かったのか、或いはここを離れたくないからなのか、今日の目覚めは一際遅かった。最終日、この言葉を口にするのも寂しいものがある。そしてこの最終日、私たちはもう慌ててどこかに向かう必要はなく、また発表の準備をする必要もなく、そして今日の昼食は和食なのかと気にする必要のないのである。この日私たちは3日間お世話になったホテルニューオータニを見学した。ここはエコや環境保全、そしてリサイクルの典型といえる場所で、ホテル独自の小型発電施設やローズガーデンなどを見て回った。同ホテルのエコ環境は素晴らしく、こうしたリサイクルシステムは私たちが学ぶべきものだと思った。

お昼はホテルニューオータニ内で歓送会が開かれた。その場の雰囲気は熱気に溢れ、またとても感動的であった。特に沼尻さんと熊璋さんの最後の抱擁には、私も思わず涙してしまった。本当に今回の訪日活動は、双方の努力により中日の友好に大きな貢献をしたと感じた。特にホームステイは、人々の中国人への、ひいては中国への見方を変えてくれるものであり、これはとても意義深く、さらに偉大なものだと思った。これからもこうした機会により、中日友好に貢献していきたい。

最後は私たちを8日間乗せ続けたバスで空港に向かった。私は早くも毎日白いシャツに身を包んだこの運転手さんを懐かしく思い、皆もとても名残惜しそうにしていた。そして中島さんは自分の子供たちを見送るように、私たちをセキュリティチェックの場所まで見送ってくれたが、私は子供の様に泣いてしまうのが怖くて、後ろを振り返る勇気がなかった。今回はわずか8日間の旅であったが、私にとっては人生の中で忘れられない体験となった。以前は、日本語を学んでいるのだから日本に来るのは当然で普通のことだと思っていたが、今は日本に来られたことがとても幸運で、大切にしなければいけないと思うようになった。北京に戻った後私たちは解散してしまうが、今回の私たち訪日団の皆が、これからもこうした初心を忘れず、各自の分野において中日友好に貢献していくことを心から願っている。

日 付：5月31日（火）8日目

大学名： 中央民族大学

氏 名： 底家銘

時間が経つのはあっという間で、昨日日本に着いたばかりだと思っていたら、今回の訪日活動もすでに終わろうとしていた。私はとても名残惜しく、日本を離れたくなかった。日本に着いたその日から、私はこの国のたくさんの優れたところに惹かれ、次第にこの国を好きになっていった。

今朝朝食を済ませた後、私たちはホテルニューオータニの環境保全のモデルや理念の見学を始め、スタッフの引率と解説により、私たちは同ホテルの廃水処理などの方法を知った。さすがに東京でも最高級のホテルであり、施設が非常に整っていて、さらに先進的であった。例えば、東京都内で広範囲の停電があったとしても、ホテルニューオータニの地下の発電施設は45秒以内にホテル内における正常な電力供給を回復することができるという。これには本当に驚かされた。

お昼は歓送会が開かれ、ホストファミリーのお母さんと久しぶりに会った。彼女が今日わざわざ時間を作って私のパフォーマンスを見に来てくれたことに、私はとても感動した。私たちは民族衣装に身を包んで踊りを披露し、現場の雰囲気は最高潮に達した。そして円満に歓送会は終了したのである。

その後、私たちはバスで羽田空港に到着し、ガイドさんや撮影チームの方との別れを惜しんだが、監督さんは涙を見せていた。私は絶対彼らのことを忘れない。今回彼らには常にお世話になった。有難うございました！